

館 報

お お く 寺

おもな内容

- 2面……館報100号発刊に当って
- 3面……館報100号を記念して
- 4面……編集にたずさわった人々
- 5面……婦人学級閉講式から
- 6面……大熊町婦人会誕生
- 7面……スポーツ傷害保険
- 8面……学級講座あんない
- 9面……社会教育活動のあしあと
- 10面……熊町幼稚園完成・交通安全
- 11面・12面……みんなのひろば

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷



よい子は 入学式

お田さん

ほく あしたから一人てくるの
そうだよ 学校のバスでね
お田さんも

いっしょにきこいねんよ いっ
だめよ そんなこと言っ
てお友だちが

いっばい いるじゃなくの
学校はとも面田(うら)んよ

小さな子どもの胸には
嬉しさと不安があつた

背なかのランドセルの中には
新しいぞうり袋の中には
夢があつた

校庭の芝生にも
緑がみえ始めている

さくらの蕾もふくらんだ
うぐいすの声のする森の梢に
雲が流れる

そのむこうに雲が湧いてる
おおきな希望の雲が

表紙に写っていられる方々の
ご容赦を乞う。(熊町小学校にて撮影)



館報も本号をもって一〇〇号を

数えるにいたりしました。先輩館長並に館報編集に携わった方々のご苦勞に對し心から敬意と感謝の誠を捧げるものでございます。また

今日まで館報を育てて下さった読者である町民の皆さんにも衷心より厚く御礼を申し上げます。いまこの一〇〇号の編集にあたって大川原の渡辺トミヨさん秘蔵の公民館報第一号を眺め文字通り感慨無量でございます。館報第一号は昭和三十一年八月三十日、ときの館長西名清さんが発行されたもので寄稿された方々のお名前もなつかしく当時燃やされた情熱に頭のさがる思いがいたします。その館報第一号の随想欄「陽がくれ」の一節にこんなことが記るされております。「一千万の町費と年余の時間を費した大野中学校が県内に誇る学校建築として完成する。夏草茂る校庭も秋には寄贈樹による立派な庭園も出来ると云う。一方化学室その他内部整備の一端として在京地元出身者の協力を求める為教育委員、PTA会長、校長が上京所期の目的を達した云々と」

いまその学校は既にとり払われ

統合中学校として中央台の高台に偉容を誇っている。跡地には県内随一の白亜の殿堂役場庁舎が建ち

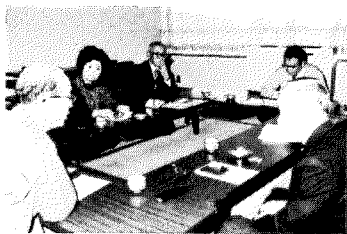
昔の面影は全くない。何と云う激しい移り変わりであろう。

またその「編集後記」にはこうも書いてありました。「館報は町当局のものでもなく町民だけのものでもない。両方の物であってこれを中心にして私達の地域が育って行く為組織的な役割を果たすものであることの考えから第一号を急ぎ発刊した。云々と」

「話は和なり」とか話合から和が生れる。話合いによって相互に納得し合うことが個人にとっても家庭にとっても自治団体にとってもいな国家はもとより国際関係においても民主平和の基盤となるものであります。話合いのない社会は「問答無用」暴力の社会であり館報はその話合いの場でもあります。

館報の二〇〇号、五〇〇号として一〇〇〇号が無事発刊されることを祈念し、更に町民の皆さんより館報に對し暖いご声援を賜わりますようお願い申し上げます。

座談会に拾う



館報は昭和三十一年八月に第一号を発刊、今回で丁度百号に達したわけですが、これまで多くの委員が館報編集に携わってきただが、館報が地域の方々にどのような役割を果しているか、又住民がどのようなことを望んでいるか、住民と接して得た意見等を交えながら館報編集委員の方々により座談会を開いてみた。

を載せる。又タイトルの工夫により館報への目をひきつけるよう留意しなければならぬ。

私も同感であり、タイトルにより読んでみたいと欲をおこさせるようにすることはむずかしいかも知れないが大事なこともある。

松本 養父町の新年号を見たが、馬年生まれの方の意見を年代別に掲載しており世代の考え方がはっきりと表われており勉強になった。そういう面では、館報おおくの新年号は職業別にのせたことはよかったと思うし、今後は各層から無差別に出すべきではないか。また地域の方々も、そう望んでいる。

志賀 古いことばかりではと云う方もいるが、これは日本の歴史を私たちが知っていると同じく、大熊町の歴史を皆んなに知らせるうえで民話等は大変よいことである。

井戸川 館報は規則の上に立って編集しているものであって、我々が原稿を書く場合も、仮に多少のうそはあったとしても、それが社会教育的な面で住民の得るところがあれば大変よいことであると思うし、それ以外は歴史的な記述にすぎない

としても、教育的な面で少しでも住民の方々に知られ、住民の福利になれば最高の幸せだと思ふ。また、広報と違うところでもあり、住民の望んでいることでもある。

私原稿を出す時、いつもおまへは教育についてばかり書くが、そんなこと古いんだと云われる。しかし、館報は指導面もあるのでやっばりうるところがあると思ふ。

小林 農業の町だから農業に関する記事がほしいといわれるので、掲載しようと思うがどうしても金銭面にふれるのでこまるといわれる。

志賀 失敗談、苦心談等であれば、気楽に書けるのではないでしようか。

館長 投稿者の氏名掲載のこと、教育的価値感の問題、タイトルのつけ方、農業に関する記事、館報の必要性等いろいろな話が出ましたが館報が町民に親まれるよう編集については事務局としても充分考えてゆきたい。

座談会出席者

- 館報編集委員 松本幸一
- 井戸川佳正
- 小川登
- 志賀栄子
- 高野昭二
- 島 晃重
- 公民館長
- 編集担当

館報一〇〇号を記念して 教育長太田芳一郎

館報一〇〇号記念発刊おめでとうございます。『昭和三十年大熊町公民館条例議決公布、同年七月に西名清館長、吉田農夫雄主事誕生によって大熊町公民館活動が開始され、翌年の八月三十日館報第一号が発刊される。』と記録されており、以来満二十二年の歳月が流れようとしており館報も正に青年期の充実した秋を迎えました。今その一〇〇号が編集完成されましたこと、過ぎ去りし時代の重みがひしひしと身に感ずるものがあり衷心より先人並びに編集に携わってこられました各位に對しまして敬意と感謝とおよろこびを申し上げる次第でございます。終戦後文化国家、平和国家の新生日本を築くためには国民自らの水準を高めなければならない、との大き

な目標のもとに公民館活動が活発になり、研修勉強の場の提供それらに真剣にとりくむ青年婦人層の姿が多く見られるようになって参りました。大熊町公民館をふりかえってみても、発足当初の小規模な古校舎下げの公民館で西名館長さん吉田前教育長さん半谷まさよさんと、少ないスタッフではありましても利用する人々、出入りする人々の何と多かつたことか。私も青年団活動を通じていろいろ公民館運営審議会委員として絶えず利用させて頂きました一員として感慨無量なものがございす。総合的社会的教育の場としての公民館活動の最も重要な位置を占める広報活動は、社会教育推進の機関誌であり地域開発の機関誌でもあります。即ちそれらは館報で

ありますが、各号共特色を出しながら町民に浸透して参りました。特に館報発刊当時以来、分館活動、青年学級、婦人学級、文化活動、町民体育祭、剣道、書道教室、高令者大学、文化財保存など数えきれない程の活動状況をその都度興味深く読み易く記述されて来ましたが、その間にも立派な中央公民館も完成ますます若い世代の人生観確立と高令者層までの生涯

研修に寄与してきましたことも、数々の表彰が物語り、且立派な公民館活動は立派な館報の充実につながって、これからも永く続けられて行くものと信じます。館報一〇〇号記念を発刊するに当り、公民館職員、編集委員、そして関係者各位に深甚なる謝意と今後のご活躍を切にお祈りするものであります。

館報一〇〇号に寄せて 大熊町議会議長松本六郎

公民館建設特別委員会が開かれた。あるいは、これでも建てた時は、双葉郡に公民館なんて幾つも無かつたんだよと誰かが言っていて、屋根から土台まで望めた古い公民館のことを想い出します。日蔭にひっそり建っていた古い公民館も吉田館長の姿も、遂この前の事なのに何んだか古い事のような感じ

時代における行政広報の必要性とあったように思う。ともあれ、館報も広報も年を追ってその内容が充実され、町民相互のパイプ役を果し、又町と町民のパイプの役割を果してゆくことを目的としている以上、何等かの形でこれにたづさわる私達も、時代に遅れることなく勉強を続けてゆかなくてはと痛感している。

がいたします。昭和三十一年新しい公民館が出来あがった時、今のように次から次と新しい大きな建物が出来あがっている時代とは違って、始めて近代的な立派な建物を持ったと云う、その喜びも一入強かつたものです。以来、公民館の利用は日々多くなりつつ、その目的達成の第一歩を踏み出してより館報発刊第百号を迎える今日に至ったのであります。その前館長を始め関係者ご一同様のご努力に對し衷心より感謝を申し上げる次第でございます。これからは、公民館が町民の建物としての機能を十分果たすために、どのように運営されてゆくことが望ましいかを考える事が重要な課題であります。つまり公民館は町民の要求に応じた事業計画をたて、学習活動をはじめ各種の発表展示、映画、放送等の手段を用いて学習、その他

文化的な活動の機会を提供する。また個人、集団でも自由にその施設設備を利用するように努力をいたすべきだと思ひます。このように公民館は、大熊町における社会教育の総合的な中心拠点として私達の日常生活を一層高め地域社会の建設発展に重要な役割を果すものであります。公民館は町民の人間関係を円滑にする仲間づくりの役割を果す場所でもあります。人々の公民館に来る度数が頻繁になつてきますとお互いに語り合う機会が出来て参ります。そして、同じ傾向の問題に関心を持つとか興味を同じくするとか、人と人との結びつきが広くなり緊密になつていくものであります。こうしたことから、お互いが力を合わせる事によって、人づくりが進み、町づくりの精神も自ら生まれると思ふのであります。このような機運や体制をつくることこそ公民館の大切な使命であります。いろいろな集団や組織が生まれ、それらが公民館にしっかりと結びついて、教育文化の振興に寄与する。これが本當の姿であります。どうか公民館を町民のすべての人々の茶の間と親しんでいただきたいと願ひしてやみません。

館報をおもむ 編集委員井戸川俊正

一昨年取こわした大野中学校の片隅で、公民館報創刊号が誕生したのは昭和三十一年の八月だった。あれから二十二年、今一〇〇号を迎える。

編集に熱心であった吉田館長の指導で、館報の一面に長い間行政広報の原稿をまとめていた頃がなつかしい。この宿借り生活から、広報おおくまが独立したのは昭和四十六年六月である。

館報は下意上達、広報は上意下達と相反する性格のものが同居していたのではとの配慮と、情報化

を

生声をあげた建物も、生みの親そして育ての親の吉田農夫雄氏も今はなく、ただ淋しくありし日を感じる。

を

を

を



編集にたずさわった人々

半谷 まさよ

館報一〇〇号おめでとうござい
ます。想えば十数年前は予算が少
なく、年間何回か、そして隔月と
なり現町長のご理解により毎月発
行出来るようになり、公民館活動
情報町のお知らせ等々、松本幸一
様は町民の声欄、教育担
当に山田秀子様、産業面
は菅野ミヨ様、木幡キサ
様、その他の方々のご協
力により泥くささのある
内容の充実した館報を誇
りとし日曜返上で編集に
専念されました。先駆者
の方々の努力とご協力の
積み重ねが実り今日のよ
うな町民にとけこみ大衆
向き現代版に成長した事
を痛感します。人の批判
は出来ませんがやってみな
い人にはこの苦勞は理解
出来ない事です。今
後益々館報を通じ社会教
育、町民の声、愛される
館報に成長されるよう希
望します。

大和田 武夫

ひと口で一〇〇号は簡単です。
でも、これまでの苦勞は大変なこ
とです。そしてまた町民各位のご
愛読がこれを支えて来たものと確
信しております。
ところで公民館活動が館報を通
じて果たす重要な役割や意義につ
いてこの機に再認識することを忘

れないでほしいと思つています。
確かに苦勞なしの業績などある
はずはなく、殊に文化形成等を追
跡する大きな目的に向つて進むた
めの努力なのだから、最も献身的
を追求されるのは当然なのです。
私も過去十年間、何かのお役に
立ちたい一心で励んできたが、こ
の喜びは人一倍です。
今、活動の一環として、ふるさ
とをつくる「活動」があるが、ふ
るさとを守る活動にも力を入れ
て町民のなかの町民であることの
自覚を高めながら、これからも蔭
に陽に大熊町発展に協力し、私な
りの努力を惜しまないつもりです。

菅野 ミヨ

私が館報編集委員に加わつたの
は、昭和四十年の前後の頃で、役
場の井戸川さん、荒岡議員、志賀
英明さんと私の四人でした。期日
までに原稿が集まることはごく稀で、
それが苦勞の種でした。又折角の
館報も各家庭でどれだけの人が見
てくれるか、心配で話題になつた
一つです。現在は公民館活動も軌
道にのり、何々学級、何々講座と
十指に余る分野で多大の成果をあ
げているし、編集も写真を多くと
り入れ、スポーツ面、社会面、文
芸欄等幅広く紙面を飾り、子供や
主婦、成人男子や老人層にも愛し、
親しまれる館報に生まれ変わったこ
とは特筆すべきだと思つた。この上
はマンネリズムに陥らないよう各
方面の協力を得、常に新鮮味のある
館報をと切に願ひたい。

編集の思い出

編集委員 松本幸一

公民館報創刊号は昭和三十一年
八月発行された。あれから二十余
年、ここに第百号が発行されるこ
とは誠にめでたいことである。
しかしその生みの親であり、育て
の親である吉田農夫雄氏を失つた
ことは誠に淋しいことである。
氏は若い時から文学的才能に恵
まれていた。旧制双中時代(大正
末期)学生会誌創刊号をひとりり
つづつた。短歌あり、随筆あり、
小説あり、論説あり中々多彩なも
のであつた。

公民館報発行十年間の努力は私
にはわからないが、相当骨折れる
にほわらないが、相当骨折れる

小野田 尚子

私は六年くらい前館報編集委員に
なつた時がありました。その時部
落の神社、お寺の取材の事が話題
になり、私自身まだ若く、部落の
長老の方達にどのようにして取材
したらよいか困つたことがありま
す。それから限られた日々の取材
で館報にときどきのりまますけど、
私自身熊川にある神社、お寺、お
地ぞう様など、何も由来がわかり
ません。それで、その部落の老人
クラブの方々、お寺の方丈さん、
神主さんに協力をいただき、その
部落の神社仏格を書いていたとい
たら若い方々も自分の部落認識が
あたらまり、神仏に対する尊敬の
念が深くなるのではないでしょう

か。その様にしているいろいろな方々
から原稿を取材したなら町の方々
も気軽に館報に協力するようにな
る事でしょう。
愛場 誠
私も数年前2年間ほど編集委員
をさせて頂きましたが、陰の力と
なる委員の方々があればこそ立派
な館報となり、町民のみならずが
楽しく愛読できるのではないでし
ょうか。私も後継者を対象に取材
し、若者が夢と希望にもえ、新し
い産業に取り組んでいた姿は、美
しくさえ感じました。彼らに
接し、自分自身数多くの勉強をさ
せていただき、走り回つた苦勞等
なつかしくさえ感じる今日です。
とかく人間は、新しい物に目を

だけだ」と答えられた。

彼は仕事の鬼であつた。始つた
ら夜になろうが休日だろうがおか
まひなしであつた。奥さんのお話
によると「読むことと書くこと以
外の仕事はなかつた」とのことだ
ある。又彼は人の能力をひき出す
ことが上手であつた。私の現在や
つていていることの大半は彼によつて
ひき出されたものといつて間違ひ
ないようだ。それは私一人ではなく、
多くの方々がいると思はれる。

私たちは彼の靈前にこの第百号
をお供へして多年の功績を感謝す
るとともに、よりよい公民館報に
するため、より一層の努力をする
ことを誓うことにしよう。

永井 ミネ子

主に私の担当とした分野は、学
校の先生、児童、生徒を対象とし
教育に関する点を取りあげてきま
した。校長先生を始め、諸先生方
への無理な原稿の依頼、そして、
私自身児童の気持になり、一般社
会への交通安全、道徳・習慣など
の呼びかけ、お願い等を書いてき
ました。

約四年間、先生方にはお忙しい
ところ、ご協力をいただき、厚く
御礼申し上げます。



熱心に聞き入る婦人学級生

生活にリズムをよ

心にゆとりをよ

婦人学級閉講式から

昭和五十二年度の締めくくりとして、去る二月二十八日婦人学級の閉講式が行われた。一年間の学習反省に先立ち、小高町社教指導員の坂下誠先生の講話(婦人の余暇と生活のリズムについて)に耳を傾けた。大変勉強になりましたので、講話の中のいくつかを紹介致します。

①金銭・労働・精神について

金銭を得るためにだけ働くこと精神貧乏になる。昔は忙しければ忙

②あそびについて

遊びは、もともとは足が外に出ることであり、時間的には、何者にも拘束されぬものである。遊びといえは普通は暗いイメージを伴うが、実はどうあそぶかが問題なのであって、上手につかえば心を豊かにするもので、暮らして弾力をつける非常に大切な要素でもある。

一日二十四時間は、労働・生活睡眠について、それぞれ八時間が標準だが、家庭では、あそびと休養が必要である。

③心にゆとりをもつためには

(1)自分の考え方の転換をはかることだ。過去の失敗を有効に生かすことが必要。しかし、こだわってばかりいないこと、前向きな姿勢

が大切である。

(2)自己の確立をはかること。子は母の言うようには育たない。母の行うように育つものだ。暮しの中にどう生き生きた自分をつくりあげてゆこうとするのか。それにはある程度自分自身の個性も必要だが、人をまねる柔軟性も必要。まねることは、学ぶことでもある。日々自己を改革することをめざそう。勉強すべきことはどこにでもあるが、ただ、それを見つけていることがむずかしい。また自分のことだけでなく、自分のまわりにも心づかいしてやる社会的な心の

文化講演会開く

生活課題を求めて百余名集う

社会教育活動の一環として、去る三月十二日、大熊町公民館において文化講演会が開催された。当日は町内の婦人会員、高令者大学生、一般の方々約二〇名が出席



文化講演会

ゆとりがほしい。

④生活にもっとリズムを

自分自身で毎日の暮しにどうリズムをつけ、生き生きたポイントをつくってゆくの。心にゆとりをもち、女性らしいきめこまかい配慮をつつみこみ、時にはユーモアを発揮したり、家族全員の旅行計画など、楽しみの目標をつくらせよう努力しよう。

そして人とは、協調・調和することが必要であると同時に、我が道をゆく毅然としたところもなければならぬ。

し、NHK解説委員の大内幸夫先生の講話「日本経済と外交上の諸問題」に耳を傾けた。先生は経済問題、外交問題等の権威者であり円高問題を中心に国内外の実情について、わかりやすく解説してくれ、聴講者も大変勉強になったと話していた。なお、昭和五十三年度も催すことになっていきますので、その機会には、是非聴講されるようおすすめします。

高令者の善意

このほど高令者大学に来ている吉岡光子(大野駅前)さんが日頃余暇をみつけては縫い続けてきた雑巾三〇枚を公民館に寄贈された。温い善意に職員は公民館をより

剣道大会成績

体育協会・剣友会の共催による少年剣道大会が、三月十九日、第二町体育館で開催された。大会には剣道教室で指導を受けている小中学生五〇名が参加し、紅白対抗、個人戦で熱の入った試合が行われた。なお成績は次の通りです。

- 小学二年の部
 - 一位 齊藤一仁
 - 二位 臼井克孝
- 小学三年の部
 - 一位 佐藤寛丈
 - 二位 山本晃之
- 小学四年の部
 - 一位 工藤昇二
 - 二位 古山秀男
- 小学五年の部
 - 一位 吉岡健太郎
 - 二位 志賀まゆみ
- 小学六年の部
 - 一位 志賀希代美
 - 二位 坂上 正
- 中学一年の部
 - 一位 猪熊三起子
 - 二位 宮本 輪
- 中学二・三年の部
 - 一位 渡辺一美
 - 二位 志賀智生

美しく、より清潔にと感謝している。紙上をお借りして御礼申し上げます。



三月で期間が切れます

スポーツ傷害保険

最近、職場やグループ等において各種のスポーツが盛んになっておりますが、これと相俟ってスポーツ活動中における事故も激増しております。このようにスポーツ活動により傷害にあった場合の救済措置として、スポーツ安全協会傷害保険制度があります。公民館では次によりスポーツ傷害保険への加入受付を開始いたします。

なお、これまで加入された保険は三月三十一日で期間が切れますので、スポーツを愛好する団体、グループ等は、ぜひ新規加入をお勧めします。

◆この保険に加入できる団体

スポーツ安全協会傘下のスポ

成果をおさめた スキー教室

大熊町体育協会スキー部(スキークラブ)では、今年度の事業として、スキー教室を開催した。第一回目は、去る一月三十一、二、三日の両日、日本一のスキー場といわれる山形蔵王スキー場において開かれ、男女合わせて三十四名が参加し、初心者クラスは、原町スポーツセンターの小林氏の暖かい指導をうけた。第二回目は二月

一ツ団体および社会教育関係団体が、責任者を置き、かつ団体が名簿に把握されている十名以上の団体構成員を対象とする。

◆保険の種類

第一種

①幼稚園、小中学校の児童生徒により構成され、自主的な活動を行うことを目的とした団体。

②PTA、青年団体、婦人団体その他これらに類似する社会教育関係団体。

③アマチュアスポーツを通じて地域住民の親睦や健康保持を主たる目的として、地域住民によって構成される団体。例えばマサさんバレークラブ、早起き野

球クラブ等

第二種

- ①山岳登山、ボブスレー、グライダー操縦等。
- ②レスリング、ボクシング、相撲、空手、スキー、サッカ、硬式野球、柔道等。
- ③剣道、卓球、庭球、水泳、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、ソフトボール、ゴルフ等。

◆この保険で対象となる事故

- ①被保険者の所属する団体の管理下における活動中の傷害。
- ②団体が指定する集合、解散場所と被保険者の住所との通常の経路往復中の傷害。

◆支払保険金の種類および額

- ①死亡保険金……被害の日から一八〇日以内にその傷害がもたら死亡したとき……一〇〇%
- ②後遺障害保険金……被害の日

から一八〇日以内にその傷害がもたら後遺障害が生じたとき……程度により三一〇〇%

③医療保険金……医師の治療を受け、平常の生活または業務ができるようになるまでの間、治療日数一日につき医療保険金日額(別表による)を支払う。

但し、非入院の場合は九〇日入院の場合は一八〇日を限度とする。

◆保険期間

加入手続を完了した日の翌日午前〇時から、その年度の三月三十一日午後十二時まで。

◆加入受付期間

只今受付中です。おそくても七月三十一日までには手続を完了して下さい。

五日猪苗代国設スキー場において開かれ、日帰りということもあって参加者数は、男女、学生合わせて四十七名という定員一杯の大盛況であった。初心者クラス二十数名は、二班に分かれて専任指導員の暖かい教えを受けた。一回目二回目とも常磐交通バスを貸切り往復の車内では、ビデオ映画を鑑賞したり、全員でコーラスやゲーム遊びを楽しんだりし、有意義なひとときを過ごしました。この会の真の目的は、単にスキー愛好者のスキー技術の向上を図るだけで

大熊町体育協会
スキー部 堀川巨夫



正調諏訪太鼓保存会 結成大会近し

正調諏訪太鼓を守る準備会(会長常盤利昭)では数回に亘る会合を重ねようやくその結成にこぎつ

けた。準備会では大和田武夫事務局長を中心に事務を進めてきたが来る四月五日午後七時三〇分より大熊町公民館講堂に於て堂々その結成大会を開催することになり、次の要領で行われる。

- 一、準備会長(常盤利昭)挨拶
- 二、経過報告
- 三、質疑応答
- 四、公民館長挨拶
- 五、会則審議

保険料および保険金額

区分	保険料	保 険 金 額	
		死亡・後遺障害保険金額	医療保険金日数
第一種	300円	3,000,000円	1,000円 1,500円
第二種	A	4,800	3,000,000 1,000 1,500
	B	2,800	3,000,000 1,000 1,500
	C	1,200	3,000,000 1,000 1,500
備考		特に希望ある場合はS型(保険料及び保険金額は上記の半額)の加入も可能です。	

なお、用紙は公民館に準備してあります。手続には団体責任者の印鑑も必要となります。

- 六、役員選出
- 七、祝宴
- 八、閉会

全てのの人に郷土があるように郷土にもまたかけがいのない文化があります。そして人それぞれが「忘却し得ない」ものだとも言い伝えられております。当町の文化といえればそれは誰れにでも愛され、懐しまれております。野上盆踊り「即ち「諏訪の樽太鼓」があります。(以下略、諏訪太鼓を守るための一節)

学級・講座あんない

◆青年学級

若人の仲間づくりをねらいとし、現地研修や学習、レクリエーション等を通し、教養を高めましょう。そして意義ある青春を送ろう。対象はおおむね二十五才までの在町する青年男女です。



◆高令者大学
高令者にふさわしい学習です。多くの仲間と共に集い、語らい長生きしましょう。対象は六十五才以上の男女です。

◆民謡講座

毎週土曜日、午後七時より半谷先生の指導で郷土民謡を覚えましょう。

◆書道講座(成人の部)

毎週金曜日、午後六時三十分より井戸川碧水先生の指導を受けます。

◆書道講座(学生の部)

毎週土曜日午後二時より及川先生の指導を受けます。

◆茶道講座

毎週金曜日、午後六時より、小峯宗峰先生が指導します。茶の心を味わってみましょう。

大熊町にも 騎馬会誕生

三月二十六日の各新聞は相馬野馬追いが国の重要無形民俗文化財に指定されることがほぼ確定的となった旨大きく報じている。それによると指定される地域に双葉郡の浪江、双葉、大熊の三町と葛尾村が含まれている。ほんとに嬉しい限りである。本

町でも相馬野馬追にみんな出場しようとする。騎馬会を結成その準備に大わらわである。予算は一五〇万円程度で会費、寄附金、補助金等で賄うことになっていく。役員は次の通りです。

- 会長 吉田 義員
- 副会長 常盤 利昭
- 幹事 酒井 周治
- 事務局長 石田 宗昭
- 菅野 祐一

◆華道講座

龍生派家元教授の指導で美の心を育てます。毎週水曜日、午前十時からです。



◆料理教室

受講生の希望をとり入れたメニューで実習します。月一、二回の講習で、女性なら誰でも入れます。



◆珠算講座

毎週火・金曜日午後二時より山田先生の指導で一級をとるのも夢ではないです。

◆受講申込み

受講希望者は住所、氏名、所属学級及び講座名を書いて四月二十日までに公民館へ申込み下さい。

民謡 金谷長者

むかし、むかし、金谷の里(下野上金谷平)に長者が住んでいました。

この長者の屋敷には七つの土蔵があり、米やみそはもちろん、金物や膳櫃などがいっぱい入っていたそうです。

この長者はたくさん男や女やとって働かせました。熊川の浜から砂鉄をとってくる人、炭をやく人、鉄をふく人、くわやかまをつくるかじや、その農具を売りにゆく人、中々忙しい毎日です。また女は稲をつくり、蚕をおき、牛や馬を養いました。山にはウルシを植えてウルシがめもいくつもありました。

この長者屋敷の上の方に牛止淵という沼があり、水田をうるおしていました。

ある日、下男の一が農具をいっばい牛の背につんで、中通りの方に出かけることになりました。

家々水が飲ませることを忘れた男はこの沼で水を飲ませようと牛を追いましたが、牛は身の危険を感じてか中々進みません。男は牛の尻をいきなり棒でなぐりました。牛は驚いて沼に入りました。ところがどうしたことでしょう。重い荷をつんだ牛は、ズルズルと底なしの沼に沈んでゆくではありません。

んか。男はびっくりして大声でみんなをよびましたが誰も来てくれません。しかたなく屋敷にもどって多くの人々をつれて来ましたが牛の姿はもう見えませんでした。沼はもとの静けさにかえっていたのです。

その晩長者は誰も知らない中に死んでいました。大判小判の埋めた所も、ウルシがめのあり場所もわからないまま長者屋敷は減びてしまいました。

ただこの沼の岸には、長い長い間、真白いサギの姿をしたかれんな花がいつばい咲き乱れ、牛の霊を慰めてくれていました。

何百年かたったある日、近所の馬がこの屋敷に逃げこみ、後脚にウルシをいっばいつけて出て来たという事です。

今この屋敷には数本の杉の大木が生い茂り、昼なお暗い所です。雨の降る晩など、大判小判の夜なきの声が聞こえらるともうわさざれています。



「社会教育活動のあしあと」

年度	主な活動内容	年度	主な活動内容	年度	主な活動内容
30	12-28 公民館発足(公民館条例を議決公布する)	39	8-22 同郡大会準優勝 9-13 大熊町誕生十周年記念体育敬老会挙行 9-23 双葉郡総合体育大会にて優勝(第2回) 11-6 大熊町制十周年記念文化展開催	47	8-3 佐藤朗君ミュンヘンオリンピックユースキ ャンプに派遣する 8-1 堀川巨夫君(下野上1区)青年の船にてソ 連に派遣される 8-15 成人式実施 9-3 町民体育祭、町区チーム優勝 9-20 県立大野病院と大熊町外4ヶ町村伝病隔離 病舎の落成式 9-28 佐藤定信君(大川原4区)青年海外派遣団 員としてアフリカに渡る 11-10 第2回町民号実施(笠間稲荷神社と観菊会)
31	1-13 公民館運営審議会規則出来る 7-16 婦人学級開設 8-1 公民館部落分館設置始まる 8-31 公民館報第1号発刊 9-14 成人講座開設 9-20 町敬老会をはじめる 11-3 第1回町民体育祭、町民文化展挙行 11-25 武道連盟発足 12-28 大熊町青年学級開設	40	2-2 国の方針による老人クラブをつくり始める (野上3・4区) 6-26 文部省委嘱婦人学級開設(第2次) スポーツ教室開設(第2次) 9-23 双葉郡総合体育大会準優勝(第3回)	48	4-1 熊町・大野中学校が統合され大熊町立大熊 中学校となる 町の木に「桜の木」を選定 8-15 成人式実施 9-2 町民体育祭、野上チーム優勝 10-20 下野上和牛研究会県主催コンクールにて金 賞受賞 12-11 統合中の校章きまる
32	1-15 成人式挙行 公民館野上2区部落分館落成 4-13 部落分館規定をつくり、分館設置を促進 7-20 さなぶり大会を開く 11-28 大小古材二教室により公民館建築議決 11-30 青年会、青年学級の協力で公民館、建築始 まる 12-8 公民館野上1区部落分館落成 12-20 第1回部落公民館館長会議開く	41	3-18 公民館下野上3区部落分館落成 3-24 公民館野上3区部落分館落成 6-20 スポーツ教室開設(第3次) 6-22 会計検査院監査 9-23 双葉郡総合体育大会にて女子バレーボール、 柔道、剣道部優勝(第4回) 9-20 大熊町公民館、部落分館整備費補助条例設 定	49	8-15 成人式実施 9-1 町民体育祭、大川原チーム優勝 9-17 社会福祉法人大熊町社会福祉協議会設立 9-28 双葉郡総合体育大会3位(第12回) 11-2~3 町制施行20周年記念文化祭
33	3-31 公民館を大野中学校敷地内に建築決定、直 営工事に着手する 8-20 大熊町公民館落成	42	3-22 大熊町青年稲作研究クラブ結成 5-16 福島県社会教育研究市町村の指定をうける 5-16 スポーツ教室開設(第4次) 6-15 福島県研究青年学級指定(第3次) 6-22 婦人学級文部省委嘱となる(第3次) 9-10 公民館野上4区部落分館落成 9-19 公民館大川原部落分館落成 10-10 国民体育デーに大熊町球技大会開催始まる 10-15 双葉郡総合体育大会(第5回)優勝 10月30 公民館熊1区部落分館落成 12-27 公民館熊2区部落分館落成	50	1-16 「福島県老人の翼」にて半谷重一氏(県の 副団長)ら5名ハワイに渡る 2-25 大熊町消防団 日本消防協会長賞受賞 8-10 松本光清君(熊川区)「日中友好東北信越 農民の船」にて中国に渡る 8-15 成人式実施 8-24 渡辺利綱君(大川原2区)「福島県農業経 営者海外派遣団員」としてオランダ、デン マークに渡る 9-7 鈴木茂君(野上3区)「若人の翼」にて西 ドイツ、フランスに渡る 町民体育祭、駅前チーム優勝 9-28 双葉郡総合体育大会優勝(第13回) 10-31~11-2 大熊町産業文化祭
34	1-6 青少年剣道クラブ結成 1-27 大野、熊町両婦人会共催による合同婦人学 級開講 2-25 町区部落分館落成 3-30 始めて公民館結婚式を行なう 4-10 大熊町公民館健康指針簿を創製して町民の 健康管理を始める 8-1 書道クラブ出来る 大熊町学級開設 8-3 大熊町史談会結成 10-1 大熊町体育指導委員設置、条例設置規則制 定	43	1-30 大熊町無形文化財保存会結成 3-14 孝子善行者表彰事務を公民館より教委事務 局に移管 4-11 久麻川民話集編集始まる(1-4巻) 5-16 熊川小館部落農業祭共同作業及び共同炊事 軌道に入る(新生活運動) 5-16 スポーツ教室開設(第5次) 7-29 相双家庭バレーボール大会始まる 7-30 歩こう会にて佐山館に標柱樹立 8-15 第1回無形文化財発表会 8-29 県研究青年学級となる(第2次) 10-13 双葉郡総合体育大会準優勝 11-3 公民館熊川分館落成 12-15 大野婦人会家庭バレーボール大会を開催 全町内に普及	51	1-16 スキー教室始まる 7-20 スポーツ少年団独自交流に池沢洋一君が参 加、西ドイツの少年団と交流する 8-15 成人式実施 8-26 愛場誠君(下野上1区)「福島県農業経営 者海外派遣団員」としてヨーロッパへ渡る 9-1 絵画教室始まる 公民館野上1区分館落成
35	8-31 公教育として、公民館を実施機関とする中 央若妻学級、中央一般婦人学級開設 11-3 大熊町公民館優良公民館として福島県教育 委員会より表彰される	44	3-5 大熊町人物誌作製(2巻) 5-22 文部省委嘱婦人学級となる(第4次) 6-30 スポーツ少年団結成(17団、665名) 6-10 青少年スポーツ活動指定町となる 6-28 公民館野馬形部落分館落成 7-12 スポーツ少年団結団式挙行 7-13 スポーツ教室開設(第6次) 8-18 22回福島県総合体育大会双相地区家庭バ レーボール大会3位入賞 9-7 町制施行15周年記念町民体育の祭典挙行 9-23 双葉郡総合体育大会優勝(7回) 11-15 町制施行15周年記念産業文化祭	52	3-1 少年剣道教室を開講 4-1 家庭教育、青年学級、婦人学級、高齢者大 学等7学級、書道、絵画、茶道等7講座を 開設し、町民の要求に応じた活動を展開中 6-5 親子登山を初めて実施 10- 文化展、文化講演会開催
36	2-15 始めて野上4区老人クラブ結成する 5-3 子ども会結成はじまる(下4、下5) 6-1 若妻学級福島民報社長賞をうける 6-17 公民館大和久部落分館落成 8-19 福島県体育大会射撃大会開催 12-26 生活改善のための新正月実施、月おくれ盆と きまる	45	3-20 大熊町立幼稚園設置 5 熊町幼稚園発足	53	3-19 大熊町婦人会誕生 3-31 館報100号発行
37	4-20 公民館内に歴史資料保存棚できる 5-3 下野上1区部落分館落成 5-15 福島県実験婦人学級となる(第1次) 8-2 県教委主催、郡内婦人講習会開く	46	7-17 大熊町公民館落成(鉄筋2階建) 7-19 大野小学校屋内運動場落成 8-15 成人式実施 9-5 町民体育祭、下野上チーム優勝 9-23 第9回双葉郡総合体育大会本町で開催、総 合優勝す		
38	1-1 始めて名刺交かん会実施 5-11 福島県総合社会教育研究町の指定をうける 6-1 福島県実験婦人学級となる 6-20 福島県新生活運動推進町の指定をうける 7-1 社会教育主事兼公民館長発令 8-1 福島県教育委員会主催相双婦人指導者会議 開催 11-3 双葉郡総合体育大会を始めて開催 (準優勝)(第1回) 12-6 青年学級振興法施行十周年記念につき福島 県教育長より、大熊町青年学級及び主事功 労者として表彰される	47	2-9 双葉地方首都圏農業振興大会開催 3-8 熊町小学校屋内運動場落成 4-1 大野小学校に幼稚園開設		
39	2-6 大熊町社会大学講座始めて開く 2-27 町経済課と合同大熊町青年研修を開く 6-15 始めて大熊町家庭教育学級を開く 6-26 始めてスポーツ教室を開く(第1次) 8-17 大熊町五輪音頭大会開催				



誇りをもつて

ある日、教え子からこんな手紙が私の許に届いた。
内容は去年高校を卒業し今の職業についてののだが、その職がどうも自分に不適当のようだとやんで

やみをもち、それを通り抜けて生きてきたという私の実生活(若き頃)の経験をかざりなく返信にしたためてやった。

そして苦しみ努力した時、希望がわいてきて、やっぱりこの道を選んだつもりでも、いざ現実におつかつてみるといろいろの苦しみが

じょうずな話し合い

「三人寄れば文珠の知恵」、よい話し合いには、ひとりではとても考えられない素晴らしい知恵が生まれてきます。

「話し合うことは大切だ」とよくいわれますが、いくら話し合ってもよい知恵どころか、まとまる話もまとまらず、ケンカ別れにな

「三人で、三分なくなる知恵を出し」という古川柳があります。話し合うという事は、なかなか難しいものです。

話し合う、家族で事故のない

した。

① 苦しみの中から学んだことは、あなたの生涯を助ける力となる

② いやな事を言ってくれた人ほど、あなたにとって大切な人である

③ 人の真価が発揮されるのは、困難につき当たった時である。

④ 自分の欠点を指摘された時、喜んで聞ける人になりたい。

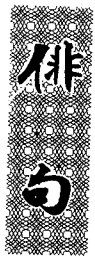
⑤ 友だちを大切にし、大いに語りあつてたすけ合いたい。
そしてあなたのおかあさんも、私のような考えでしようから今の職を永く続けてほしいと思うことを告げて筆をおいた。

大川原 志賀栄子

世界「交通安全スローガンにもあるように、話し合いは家庭をはじめ公民館の学級、婦人会のあつまり、職場での沢山の会議など、私たちはこの話し合いのなかに取りかかまれています。

話し合いに加わった人たちの衆智が結集され、話し合うことによつてお互いの理解が深まり、人間関係がいっそうよくなること、これが「じょうずな話し合い」です。

よい話し合いをするためには、それに加わる人たちが自分の考えにばかりとらわれず、他人の意見



俳句

佐久間 信子

日曜の遅き朝餉よ桜草

山芋を洗ふ夫の手きびきびと

木村 蓉子

牛の背の日差しやわらか寒の入

急逝の人の賀状や墨黒々

猪井 静枝

毛虫焼く夫の肩にも毛虫もて

初なりの柚子の香りや掌に

千葉 公平

月満ちて夜寒の雁の渡りけり

初春や輝く波の豊かなり

鎌田 光子

児を案じ鮭飯ほうばる産後かな

紅葉葉を浮べて池の晴着かな

結城 千代

降り初めし雪白鳥の羽のよう

越冬の鉢植えに部屋せばまりぬ

永井 善子

争いの後の空しく赤トンボ

病む夫の寝顔悲しき冬の風

菅野 ミヨ

南天をついばむ小鳥日に増して
初年始似合ひの夫婦ほほえまし

家庭教育に思う



(田原重助)

ある時、息子が腹をたてて大声で母親を叱っていた。そばで聞いていた孫が祖母を慰めて言った。

「おれ、おつきくなつたら、とうちゃんをおこつてやっかん」と。

家庭教育は無意識の中に行われていることを忘れてはならない。

(一町民)

争いて睦みて老ひぬ年の暮
大根の千切り音や冬隣り

渡辺 博之

航跡や気仙沼湾冬の風

ふる雪の堆肥に降りて積らざる

ストープに敗者の如く来て集ふ
冬曇一隅遂に夕暮

渡辺 政美

ポスターに思う

町内にある掲示板やバス停などには、色あざやかなポスターがはられ行きかう人々の関心を集めているようです。本当にポスターの効果は大したものですか。ところが私は何時もこのポスターについていやな思いをしています。真新しくきちんと張られたポスターのうちには、人目をひきますが、風雨にさらされ、糊づけもとれてバサバサとぶらさがった状態のもの、色あせて道路をとろせまじと、おどり歩く異様な風景には目をそむ

竹花さんの養豚

今日は、熊一区の竹花和男さんの養豚経営をたずねてみました。現在、町内には相当数の養豚農家があり、五〇、六〇頭という大型の繁殖豚経営者もおります。竹花さんは、町内では数少ない繁殖から肉豚出荷まで行っている専業の養豚家です。特に堅実な経営ぶりには同業者の間で高く評価されておりあります。

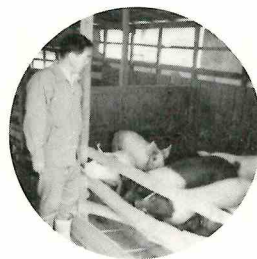
竹花さんに養豚を始められた動機や苦心談等を伺いました。次から次へと話してくれた。畑作農業のため出稼ぎで生計をたてていたのですが、家族揃って生活できるようにと

良心などと言うものはどこにいったしまったのでしょうか。自分だけの一方的な都合主義では困ります。人に迷惑をかけないようお互いに注意したいものです。

歌集と読んで

大正二年頃大野小学校に、渡辺喜助という先生がいらっしゃいました。先生は、短歌が好きで、後年「ひびらぎ」という短歌集を出版された。歌人としては県下でも有名な人でした。

思ってたのが養豚です。昭和四十年、ランドレースの仔豚一頭が一万三千円位でした。金の無い私には登録豚は買えず、無登録の仔豚一頭を八千円で買ったことが今なお忘れることができない。地位もなければ力もない私には金を貸してくれる所もなく、一頭の仔豚を買ってはまた、出稼ぎに行つたのです。ねずみ算のように殖えた豚を肥育して出荷すれば相当の利益があるだろうと思ひ、昭和四十二年に東京食肉市場に初出荷したのでした。



しかし、肉質が悪く家畜商に庭先販売するよりはるかに安いので驚きました。その後、講習会や諸先生方の教えを頂き、上物率六十%以上の肉豚を出荷できるように

刺あらわなり庭のひひらぎ 師範学校卒業されると大野小学校に赴任しました。

地図をたより大野小学校に着任す 停車場ありて旅館も建てり

ともすればあらがう児等と効外の 大野の原につれだち遊ぶ

同宿して初任のわれを見給ひし 志賀先生は脳溢血に死す

その後何年かして熊町小学校に 赴任しました。

幾丈の断崖の上に身を伏せて こわごわのぞく熊川の淵

先生の当時の生活の一端をよまれたものを書いてみます。

編集後記

●明治百年、樹令百年、長寿百歳百のついた言葉にはいろいろある。かつて大熊町にも百歳を越えた人がいた。樹令百年を越える杉の木も、松の木も何本かある。いづれもたいへんなものである。百を数えると云うことはまた並大抵ではない。

●館報も本号をもって一〇〇号を数えた。館報も読者の皆さんに馴染み、いまではなくてはならないもののような気がするのは私一人だろうか。十日も雨が続きと太陽の有難さがしみじみわかる。三時間も停電がつづくど電気の有難さが改めてわかる。もし館報がなくなつたとしたらたまらない淋しさを感ずると思う。

●公民館の庭にある小さな池の中には、鯉が浮かび柳の芽も次第に大きくなってきた。この館報が読者各位の座右に届く頃は桜もちらほら咲くことであろう。春光降りそそぐ庭園を眺めながら読んでいただきたい。

●館報一〇〇号記念特集号を編集するにあたり、特に原稿をお寄せ下さった先輩各位に敬意を表します。



(知人)